

伸長が図られるとともに、自主的・実践的な態度形成がなされ、心とからだの発達が図られること、及び、集団活動を理解し、規則が守られ相互の立場が理解されるとともに、進んで協力し、役割と責任が果たされることにより、集団を愛する心が育てられる生活。

② 「集団生活の向上」を支える要素

ア 心とからだを育てること。 イ 個性を伸ばすこと。 ウ 自覚を深め協力すること。
エ 事に進んであたること。 オ 集団を愛すること。 カ きまりを守ること。 キ 役割と責任を果たすこと。 ク 立場を理解し仲よくすること。

③ 「集団生活の向上」のための道徳的要素

ア 集団を愛する心 イ 規則の遵守 ウ 役割と責任の励行 エ 自他の立場と和の尊重

(2) 仮説

学級や学年、生徒会などの集団生活の向上は、集団生活を高めるのに必要な事項の充実とともに、これらに含む道徳的要素の深化・拡充に努めることにより、その成果をいっそう期待できる。

3 計画

(1) 方法 一群法による

(2) 対象 2年1組 41名(男21名,女20名)

(3) 組織 個人研究とするが、必要に応じて学年及び道徳部会の協力を得る。

(4) 日程

① 第1期 仮説設定の段階 (56年6月～7月)

ア 研究計画の樹立 6月～7月

イ 実態調査 6月～7月

ウ 研究主題の決定 6月下旬

エ 文献研究 6月～7月

オ 仮説の設定 6月～7月

② 第2期 検証の段階 (7月～11月)

ア 教材研究と指導計画の作成 7月

イ 事前意識調査の実施 7月～10月

ウ 検証授業及び援助指導の実施 6月～11月

エ 事後意識調査の実施 10月～12月

③ 第3期 整理の段階 (11月～12月)

ア データの処理 11月～12月

イ 結果の分析 11月～12月

ウ 研究のまとめと反省 11月～12月

4 概要と考察

(1) 研究の経過

① 「集団生活の向上」指導の場と方法

ア 主として「集団生活の向上」のための道徳的要素の指導

○ 道徳の時間

・ (全体) ねらいの明確化と指導過程への位置づけ

・ (個別) 実態把握と発問の工夫

〈一単位時間ごとの事前・事後調査〉

イ 主として「集団生活の向上」を支える要素の指導

○ 日常生活

・ (全体)

学級会活動～題材の設定と援助指導

学級企画委員会活動～題材の収集・選択
と企画・運営への援助指導

短時間の学級の時間 諸問題解決の手だ
て援助指導

〈観察による実践・行動の調査〉

・ (個別) 抽出生徒

〈考え方・態度・行動の追跡調査〉

○ 家庭との提携

・ (全体) 学級懇談, 方部懇談, 学級短
信の発行

・ (個別) 家庭訪問

ウ 仮説設定前と研究終了時の実態と変容把握

② 研究実践の内容

ア 主として「集団生活の向上」のための道徳的要素の指導

このための「道徳の時間」の指導は「集団生活の向上」を主とした主題を選び実践した。

そのおもな期日や主題は〈表2〉のとおりである。また、この時間で一単位時間ごとに事前・事後調査をした。

イ 主として「集団生活の向上」を支える要素の指導